

◆国際理解のつどい(11月20日)

「外国人と語ろう東日本大震災」と題して、外国人市民と震災の体験を共有し、今後の多文化共生のあり方や、防災・エネルギー問題などについて語り合いました。

◆ホビングリッシュ講座

- ～感謝祭編～(11月6日)
- ～読書編～(1月28日)
- ～絞り染め編～(2月11日)
- ～旅行編～(3月3日)



絞り染め編の様子

水戸市のAET(英語指導助手)が講師を務め、趣味につながるテーマについての実習や講義を英語で行いました。

◆世界の歩き方講座

～アメリカ南部編～(11月17・24日)

「アメリカ南部の人、文化、そして文学と映画の旅」と題して、アメリカ南部の二都市、アトランタとニューオーリンズについて文化的側面から学びました。

◆つくってみよう!世界の料理

～ギリシャ編～(11月19日)～セルビア編～(2月18日)

ギリシャ編では、オリーブオイルや濃厚なヨーグルトをふんだんに使った爽やかな料理を、セルビア編ではスペアリブと煮込んだロールキャベツなどを作りました。



▲セルビア編の様子

◆はじめのいっぽ

～楽しく学ぼう!韓国語編～(12月10日)

文字の基本や韓国の魅力、旅先で使える簡単な会話などを中心に、韓国語の基礎を学びました。

◆親と子の国際講座

～世界のお正月を体験しよう!～(12月11日)

世界地図を用いた「すごろく」や、世界の正月にまつわる「〇×クイズ」で遊んだり、いろいろな言語で賀詞を表現した年賀状作り、中国のお正月には欠かせない水餃子の調理を体験しました。



◆クラシック音楽でめぐる世界の街 Vol.7 (2月16日・2月23日・3月1日・3月8日)

水戸芸術館音楽部門による同講座では、18世紀後半から20世紀初頭にかけての西ヨーロッパやロシア、アジアなどの都市を舞台に、クラシック音楽と先人たちについての講演を聞きました。

◆どようサロン

お茶を飲みながら、誰でも無料で交流に参加できる気軽さが魅力のどようサロン。週ごとに英語・韓国語・中国語で活発な交流がみられました。



▲気軽に交流を楽しめます。

公益財団法人水戸市国際交流協会基金へのご支援のお願い

当協会は、国際交流活動の促進や地域の国際化、多文化共生の実現に向けて様々な事業を行っております。今後さらにこれらの活動を充実させていくためには、多くの皆さまからのご支援が必要です。お寄せいただいた寄付金は、水戸市国際交流センターで行われる国際交流促進のための事業に活用されます。皆さまのあたたかいご支援・ご協力を心よりお願いいたします。

当協会への寄付金は、「公益財団法人」への寄付として、税制上の優遇措置が認められています。

※詳しくは当協会事務局にお問い合わせください。

ホームページ上にメッセージボードを開設します

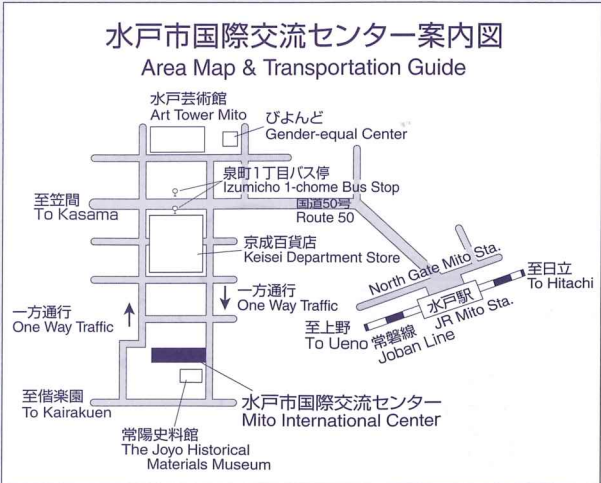
インターネットに接続できる環境があれば、どなたでもご利用いただけるメッセージボードを当協会ホームページに開設予定です。「外国の人と交流をしたい」、「語学の先生を探しています」など、自由な情報交換の場としてご利用ください。

※水戸市国際交流センター2階ロビーに設置しているメッセージボードも、これまでと同様にご利用いただけます。

◇機関紙へのご意見や感想をお待ちしています。

開館時間：午前9時から午後9時まで
休館日：月曜日、祝日(土曜日を除く)

〒310-0024 水戸市備前町6-59
水戸市国際交流センター内
(公財)水戸市国際交流協会
Tel:029-221-1800 Fax:029-221-5793
http://www.mitoic.or.jp/
E-mail:mcia@mito.ne.jp



Mito City International Association

(公財)水戸市国際交流協会機関紙
第41号
2012.3.

重慶市親善訪問団が来水しました

平成24年1月31日、水戸市の友好交流都市である中国重慶市より、朱晞顔重慶市人民政府外事僑務弁公室主任ほか3名の親善訪問団が来水しました。訪問団は、水戸市国際交流センターにおいて展示室を見学し、写真や記念品をとおして両市の交流の歴史を振り返りました。水戸市役所や水戸商工会議所の表敬訪問では、これまでに深められてきた両市の友好交流の更なる発展を約束することができました。また、小吹清掃工場と、清掃工場の余熱を有効活用している植物公園などの視察を行いました。



朱主任に橋本耐水戸市副市長(右端)から記念品を贈りました。▶

重慶師範大学へ図書101冊を寄贈

昨年10月、水戸市の親善訪問団は重慶師範大学で日本語を学ぶ学生と交流を行いました。日本語をもっと勉強したいと目を輝かせて話していた学生たちに少しでも役に立てばと、高橋靖水戸市長が水戸市立中央図書館で所蔵していた図書101冊を重慶師範大学へ寄贈しました。



▲重慶師範大学訪問時の交流の様子



外国を理解するためには、その国の言葉を知ることが最も重要なことになるであろう。

市長から重慶の日本語を学ぶ学生さんに本を差し上げる話を聞いた時、その様に考えました。

水戸市立図書館の蔵書であった本を、重慶師範大学の学生さんたちに読んで頂き、日本理解を深めて頂ければ望外の幸せです。

水戸市立中央図書館長 岡田 豊明

外国人のための生活情報紙 「Culture Pot MITO」 ～感想を聞きました～

Q 楽しみにしている記事を教えてください。

- ・生活情報(7名)
- ・イベント情報・歴史コーナー(各6名)
- ・特集記事(4名)
- ※役立つ特集:「暖かく過ごすためには」,
「各季節の備えかた」、「スポーツ施設」、「防災」。

Q 紙面で紹介した中で、実際に足を運んだイベントや場所はありますか。

- ・水戸黄門まつり(2名) ・堀原運動公園(1名)

Q どのようなコンテンツに興味がありますか。

- ・コンサート・イベント情報(5名) ・歴史(3名)
- ・おすすめの飲食店(3名)
- ・スポーツのサークルなどの情報(2名)
- ・日本で生活するにあたってのアドバイス(1名)
- ・料理講座やレシピ(1名) ・気軽に行ける外国人の集まり(1名)
- ・水戸市のお知らせ(1名)

感想

- ・いつも楽しく読んでいます/ありがとう。
- ・紙面自体はよくできていると思うが、得た情報については忘れがたくなってしまふ。
- ・なかなか行けなくても、イベントについて知る機会があるのは嬉しい。

国際交流を盛り上げていこう!

東日本大震災後は多くの外国人が帰国し、国際交流の現場では寂しさを感じる時期もありました。しかし、日を追うごとに、当協会の外国人支援事業や交流事業に積極的に参加して下さる方の姿も増えてきました。

これからも、今まで以上にみんなで国際交流を盛り上げていきましょう。

12月16日

防災訓練&AED講習会

外国人のための防災訓練として避難誘導訓練のほか、消火器・消火栓の使い方やAED・心肺蘇生法講習も行い、参加者は真剣に取り組んでいました。



12月17日

外国人のための 日本料理教室

お弁当づくりに挑戦し、厚焼き卵や、豚肉の三色巻などを彩り良くお弁当箱に詰めました。



水戸市に住む外国人の役に立つ情報を発信していこうと、今年度から発行を始めた情報紙「Culture Pot MITO」。

このたび、外国人市民23名にご協力をいただき、紙面についてのアンケート調査を行いました。そこから見えてきた感想や課題について報告します。

アンケートを終えて

このような率直な反応が聞けたことは、紙面作りの上で大変参考になりました。

紙面には、外国人でも参加しやすいようなイベント情報などを掲載していますが、大半の方が、「忙しい」、「交通手段がない」、「忘れてしまう」などの理由で参加しにくいという状況も知りました。

これからも多くの方のご意見・ご感想を基に、必要とされている情報やニーズにこたえられるよう、より一層充実した紙面作りを目指していきたいと思えます。



ホームページ上のこのバナーが目印です。

協会トップページの左のメニュー「外国人のための生活情報紙 Culture Pot MITO」のバナーから、これまでの「Culture Pot MITO」(カラー版)をご覧いただけます。
<http://www.mitoic.or.jp/jp/ass/shiryo/cpm.php>



1月21日

新年パーティー

外国人参加者にとっては日頃学習している日本語の発表の場でもあり、文化紹介やビンゴ大会などで盛り上がりました。



2月17日

外国人のための スキー教室

雪に触れる機会がない参加者が転びながらもスキーや雪遊びを楽しみ、白銀の世界で貴重な体験をしました。



3月9日

外国人のための市内ウォッチング

NHK水戸放送局と水戸リサイクル館を訪問しました。また、震災当時の様子を紹介している大洗リゾートアウトレット内の復興記念ギャラリーへも足を延ばしました。



インタビュー ～「世界教室」の旅を終えて～

世界各地をめぐる、各国の人々の暮らしなどをインターネットをとおして学生や地域の方へ伝える「世界教室」という企画を立ち上げた高土聡子さん(平成23年3月発行・機関紙38号で紹介)が、この度、約一年にわたる旅から無事帰国しました。このプロジェクトをとおして見えたこと、感じたことについて伺いました。

Q 無事の帰国おめでとうございます。「世界教室」の旅はいかがでしたか?

A 2011年2月6日から2012年1月16日の約1年で36カ国を周りました。安全に旅を終え、私たちの目的であった「世界教室」も実現できたので、とても満足しています。

Q その「世界教室」では、どのような講義をしたのですか?

A まず、水戸市内の高校から、「地理の授業で、ベトナムのストリートチルドレン(路上で暮らす子どもたち)の実情と、大気汚染などの都市問題について教えてほしい。」という依頼を受けて講義をしました。生徒たちは、そのテーマについて事前学習をしていたので、私たちは現地取材をし、インターネットで水戸へつなぎ、パソコンの画面を通して実情を伝えました。

Q 講義の内容に応じて現地取材をしたんですね。

A 「世界教室」の講義にあたり、自分たちも学ばなければならないので、お話を伺えそうな方への訪問を積極的に行っていました。勉強になったし、良い出会いもたくさんありました。

ストリートチルドレンの更生に取り組んでいる日本人との出会いもそのひとつでした。彼はベトナムでレストランを営み、路上で暮らす子どもたちに「僕の店できちんと働こう。」と声をかけ、英語や働き方も教えて、社会に送り出す活動をされています。

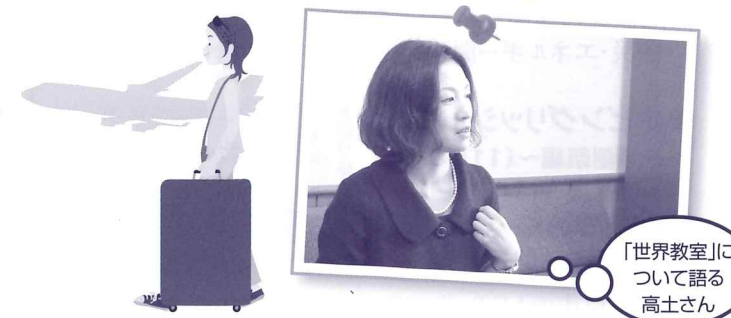
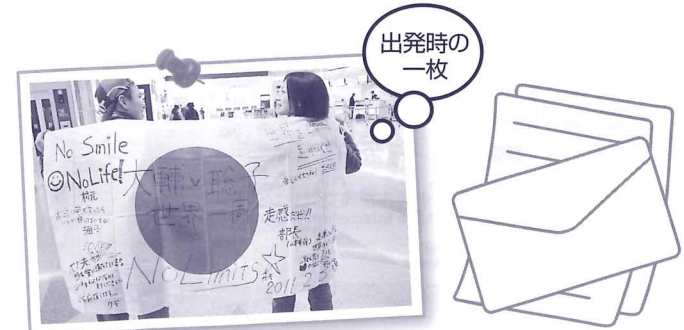
「世界教室」で、学生にメッセージを伝えたいと協力を求めると、皆さん快く取材に応じてくださいました。

Q 大学生にも「世界教室」の講義を行ったんですね?

A 「商社に就職しても海外赴任は嫌。」というような内向き志向の学生が多いと聞いたので、日本人駐在員などにもインタビューをして、彼らが暮らす国のことや生活の様子を伝えました。

インドからの講義では、アパレル企業を立ち上げようとしている日本人の友人にインタビューし、「世界教室」にも出演してもらいました。日本の学生からの質問に答える対話形式で授業を行い、インドで暮らす彼の「生の声」を学生に伝えることができました。

また、エジプトからは、直前に滞在したイスラエルについて講義を行いました。ここでは、「イスラエルってどんな国?」と、イメージがつかない方も多いと思い、パレスチナ問題や、私たちが実際に見てきた分離壁(安全保障の名目のもと、パレスチナとの間に建てられたコンクリートの壁)など、現地の映像や写真、また、現地の大学生との対話から得た、一般市民の思いを伝えました。



「世界教室」について語る高土さん

Q 学生の反応はいかがでしたか?

A 例えば、イスラエルの講義の時は、「何となくニュースで聞いたことがある。」という反応から、「そういうことだったのか。」という納得に変わった様子を感じ取れました。講義の後の感想では、「もっと早く講義を受けていたら人生が変わっていたと思う。」「実際にインドに行ってみよう。」と言ってくれた学生もいて、手ごたえを感じています。

Q 出発前、自分たちのチャレンジする姿を見て、若者にもグローバル志向を持ってほしいと抱負を語っていましたが、いざ「世界教室」を終え、改めて伝えたいことは何ですか?

A やはり、伝えたいことは一緒で、グローバル志向をもっと持たなければいけないということです。日本は不景気だとか言われていても、目の前には毎日ご飯があって、生命にかかわるような危機もない。「何となく国は大変なんだろうけれど、大丈夫だろう。」と、あぐらをかいているような感じがします。しかし、斬新なビルが立ち並び、国政も順調なシンガポールなど、アジアで急成長を遂げている国を見ると、この先の日本は大丈夫だろうかという危機感を覚えました。

ですから、インターネットなどの情報だけでわかったつもりになるのではなく、実際に海外に出て、自分の目でいろいろな物を見なければいけないと感じました。

今のこの平和や安定した生活は、全部昔の人が築き上げたものであって、私たちはただそこに乗っただけです。でも、それがいつか崩れた時に、果たして立ち直れるのかなと思うのです。同時に、自分たちがしっかり国を作っていくかなければならないとも思います。私も微力ながらそういう気持ちを持ち、国を盛り上げていくような強い若者が育っていったらいいなと思います。

「世界教室」では、「日本は恵まれている環境だよ。」ということも伝えてきました。それは多くの人が言っているので、頭では分かっていることだと思うのですが、それを改めて映像や写真で伝えて、「もっとチャレンジしよう。」ということもメッセージとして伝えてきたし、これからも伝えていきたいと思っています。

Q この旅で得たものは何ですか?

A 得たものはたくさんありますが、挙げるとしたら、
①世界中にできた友達、②一生涯の経験、③人間力、この3つです。
あとは、焚火や野宿など過酷な生活をしたのでタフになったし、広い視野が持てるようにもなりました。今までは、日本にいて海外を見ていた感じがするんですけど、今は、地球にボンと浮かんで、世界を俯瞰できるようになったかなと思います。

Q またチャレンジする機会があったら、「世界教室」、やりますか?

A 喜んで行きます。世界はまだ広いです!

「世界教室」の詳細やレポートは、
当協会ホームページでご覧いただけます。
http://www.mitoic.or.jp/jp/ass/sekai_kyoushitsu/index.php